



まちづくり目標 2

教育・文化

きらきらと輝く人が育つまち

1 節 安らぎと豊かな人間関係、生きる力を育む、家庭教育



施策のめざす姿（5年後のあるべき姿）

- 基本的な生活習慣や倫理観をはじめとする家庭教育の重要性が浸透し、子どもが家庭の中でも生きる力を育むことができます。
- 家庭の役割を理解し、家庭教育※⁸の質を向上させるための講座等が充実しています。

現状・課題

（1）家庭教育の重要性の周知

- ①都市化や核家族化、雇用環境の変化により身近な人から子育ての仕方を学ぶ機会の減少、子育ての悩みなど気軽に相談できる人が身近にいないなど、親や家庭を取り巻く状況、子育てを支える環境も大きく変化しています。
- ②公民館講座を活用し、社会教育指導員等を通じて「家庭教育にも関連する講座」を実施しています。講座参加者からは「楽しく学ぶことができた」、「今後も参加したい」と肯定的な反応が多く、今後も継続実施が望まれます。

家庭教育に関する講座の開催状況

項目	基準 (H27)	目標 (R3)	実績			
			H29	H30	R1	R2
家庭教育に関する講座数（回）	6 回	10 回	6 回	5 回	6 回	3 回

出典：生涯学習文化課調べ

（2）家庭教育を考える機会の充実

- ①家庭教育は、これからの未来を支える子どもたちへの大切な贈り物です。そして、子どもを育てることは、未来の南風原町を支える人材を育てるという観点においても重要なことです。そのため、町では町立中央公民館や各字公民館等での講座を通じた家庭教育や、各学校 PTA を中心とした家庭教育学級の活動支援、親子共同活動支援、読み聞かせ等による親子のふれ

※⁸ 家庭教育：家族のふれ合いを通じて、子どもが基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやり、基本的倫理観、自尊心や自立心、社会的なマナーなどを身につけていくことをいいます。

あいなどを通して家庭教育の大切さを再認識する機会を提供しています。また、家庭の大切さや役割を再認識することを目的とした「家庭の日（毎月第3日曜日）」、家庭、学校及び地域社会の連携の下に町民全体で教育に関する取組を推進するため「学校公開日（5月第4日曜日）」、「教育の日（12月の第2日曜日）」を設け、地域ぐるみで家庭教育の強化に取り組んでいます。家庭環境は子どもの成長に大きな影響を与えます。様々な問題を抱える家庭が社会的に孤立することを防ぎ、子どもの「生きる力」を育むためには、地域・学校等と連携した支援が求められています。

施策の展開

（１）家庭教育の重要性の周知

担当課 生涯学習文化課、教育総務課、学校教育課

- ①子どもの基本的な生活習慣、基本的倫理観、自立心を身につける上で重要な役割を担う家庭教育について周知を図ります。
- ②家庭・学校・行政等が協働し、子どもの自己肯定感を高める関わり方、生きる力を育むための支援を進めていきます。
- ③「早おき・朝ごはん・徒歩登校・適度な運動・家庭学習・早ね」など基本的な生活習慣の定着に向けた各種活動を推進します。
- ④子どもがインターネットや ICT 環境等のツールを通じた犯罪に巻き込まれないよう、またいじめの被害者にも加害者にもならないよう、情報端末等の利用を通じた危険性や安全に利用するための知識、家庭内の利用ルールの重要性や人権意識の高揚について学校等と連携しながら周知を図ります。

（２）家庭教育を考える機会の充実

担当課 生涯学習文化課、教育総務課、学校教育課、こども課

- ①PTA 活動、地域活動、学校行事等を通じ、家庭教育の大切さや家庭教育の役割等に関する情報提供を行います。
- ②公民館講座等を通じて、いつでも、どこでも、誰でも学べる環境づくりをさらに充実させます。また、保育所、幼稚園などの公共拠点施設と連携し幼少期から家庭教育の大切さを学ぶ機会の充実を図ります。
- ③社会の一員となるための基礎的資質や能力を養うなど、子どもの「生きる力」を育む家庭教育を推進します。

重点事業

- 家庭教育をテーマにした公民館講座の開設
- 家庭教育学級の推進

Ⅱ 基本計画編

5年後（令和8年度）の目標値		
指 標 名	現状値 （令和2年度）	目標値 （令和8年度）
家庭教育に関する講座数	3回	10回
家庭教育に関する講座の参加者数	36人	150人



まちづくり目標 2

教育・文化

きらきらと輝く人が育つまち

2 節 地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育



施策のめざす姿（5年後のあるべき姿）

- 南風原文化センターを中心に平和学習や歴史学習が行われ、平和な社会を構築するための開かれた学習の機会が創出されています。
- 友好都市との交流をはじめとする様々な国際交流が活発に行われ、国際的な視野を持った人材が育っています。
- 公民館講座や例えばる大学、町立図書館など身近な場所で大人も子どもも学び・体験・交流できる機会が充実しています。
- 文化・伝統・芸能に触れる機会に恵まれ、誇りある地域の文化が継承されています。
- 町民参加型のスポーツ・レクリエーションを通じて、和気あいあいと交流し、笑顔あふれるまちになっています。

現状・課題

（1）平和学習及び歴史学習の推進

- ①子ども平和学習交流やインターネットを活用した学ぶ機会や平和意識の高揚に向けた取組など、平和について学ぶ環境が整っています。今後も充実した体制づくりが求められています。

（2）国際交流の推進

- ①ハワイ・カナダ（レスブリッジ市）でのホームステイ等による人材育成、「地域学校協働本部事業（以下「学校応援隊はえばる」という。）」等を通じて、学校・保護者・地域と連携した教育力の向上に向けた取組が行われています。身近な外国人をはじめ、多様な異文化を持つ人たちとの交流を通じ、様々な考え方を学び国際的な視野を広げるような取組が求められています。

（3）学び・体験・交流の場や機会の充実

- ①南風原文化センター、公民館学級講座、各種社会教育団体の活動等を通じて、学びの場の充実を図っています。まちの課題解決に向け、考え、行動できる人材を育てるための場や機会の充実が求められています。
- ②本町の歴史や文化、産業等について学び、地元の魅力をより深く知ることのできる「はえばる大学」は、生涯学習の一環として広く仲間づくりを行いながら自己の生きがい探求を行える場とな

っています。今後は、高齢者等の持つ知識や技術、経験を次世代に受け継ぐ世代間交流に関する取組が課題となっています。

はえばる大学受講者数の推移

項目	基準 (H27)	目標 (R3)	実績			
			H29	H30	R1	R2
はえばる大学受講者数(人)	0人	20人 (延べ80人)	—	18人	11人	10人

出典：生涯学習文化課調べ

③町立図書館では、町民の学びの場として、電子図書館の展開や絵本の読み聞かせ、時節に応じた企画展示を行っており、多くの町民が利用しています。町民の読書ニーズは今後も増え続けることが予想され、蔵書の増冊など、図書館機能の更なる充実が求められます。

(4) 文化・伝統・芸能等の保全、継承、活用

①子どもたちの地域学習において、文化財や伝統工芸等を活用することで、地域の歴史や文化と親しむ機会をつくっています。伝統芸能については、貴重な地域資源として後継者の育成等に取り組んでいます。町の史跡や文化財等については、発掘と保存、活用（公開）等を適切に進めていくことが求められています。伝統芸能を守り、未来へ受け継いでいくために、後継者の育成が今後も求められています。

(5) スポーツ・レクリエーションの振興

①シニアスポーツ大会や、新春マラソン等の各種大会、各種スポーツ教室、各種スポーツ団体やサークルの活動支援など、町民の相互交流や健康増進に努めています。健康増進に向け、黄金森公園等のスポーツ施設を活用し各種スポーツ大会、スポーツ教室等を通じた、子どもから大人まで幅広い年代での運動習慣の定着が求められています。

スポーツ施設の利用状況

項目	基準 (H27)	目標 (R3)	実績			
			H29	H30	R1	R2
スポーツ施設の利用者数(人)	95,438人	100,000人	95,439人	98,226人	97,511人	91,617人

出典：教育総務課調べ

②黄金森公園のスポーツ環境の整備により、町民のスポーツ活動の場づくりに加え、プロスポーツチームとの交流を通じた活動の充実が図られています。スポーツキャンプ受入実績は、J1サッカーチームや県外大学陸上合宿など、およそ17団体となっています。引き続き、既存のスポーツキャンプの誘致に取り組んでいくとともに、新たなスポーツチームの誘致に向けた取組が求められます。

スポーツキャンプ・合宿誘致件数及び利用者数

項目	基準 (H27)	目標 (R3)	実績			
			H29	H30	R1	R2
スポーツキャンプ・合宿誘致件数及び利用者数 (団体・人)	14 団体 1,182 人	20 団体 1,500 人	19 団体 1,434 人	17 団体 1,697 人	18 団体 1,705 人	17 団体 1,695 人

出典：教育総務課調べ

施策の展開

(1) 平和学習及び歴史学習の推進

担当課 生涯学習文化課、産業振興課

- ①南風原文化センターや沖縄陸軍病院南風原壕群を学習拠点としての活用、歴史資料のデータベースなどを通じた町の歴史文化・平和学習の充実を図ります。また、オンラインで展示物を見学できる仕組みも検討します。
- ②壕や文化財の地域案内人の育成、平和や歴史等に関する活動を支援します。
- ③戦争体験者の高齢化を踏まえ、証言、体験談、資料の収集及び記録保存等を推進します。

(2) 国際交流の推進

担当課 企画財政課、生涯学習文化課

- ①海外友好都市との交流の充実、ウチナンチュ大会の活用等、本町から世界へ移民した方々とのネットワークと交流活動の充実を図ります。また、交流の実施にあたっては、リモート交流会等のオンライン活用も視野に入れて取り組みます。
- ②海外との交流促進、関係機関等と連携した国際交流など国際的な視野を持った人材育成を図ります。
- ③町内在住の外国人の方との身近な交流を通して、それぞれの文化や生活習慣、価値観などを紹介するなどして、相互理解と国際理解を深める機会を推進します。

(3) 学び・体験・交流の場や機会の充実

担当課 生涯学習文化課

- ①住民のニーズに応え、はえばる大学等、テーマごとにその分野の専門家から学ぶことができる講座の実施など、町民が学び・体験・交流できる機会の更なる充実を図ります。
- ②高齢者等の持つ知識や技術、経験を次世代に受け継ぐ世代間交流の充実を図ります。
- ③町立図書館における電子図書の充実や読み聞かせ会の実施など、町民の読書ニーズに応えるため図書館機能の拡充を図ります。

(4) 文化・伝統・芸能等の保全、継承、活用

担当課 生涯学習文化課、産業振興課

- ①文化財の調査を行い、保存並びに適切な管理と活用を図ります。
- ②文化の発信拠点として南風原文化センターの利用を促進するとともに、町文化協会や各字・自治会、関係機関と連携し、町民が気軽に文化に触れる機会の創出を図ります。
- ③歴史や文化に関する講座の開催や、町内小・中学校で伝統文化に触れる機会の創出によって、町民の地域文化に関する意識啓発を図るとともに、後継者の発掘・養成を図ります。
- ④観光振興や伝統工芸などと連携し、伝統芸能等を発表する場を創出し、地域の文化・伝統・芸能の継承と魅力の向上を図ります。

(5) スポーツ・レクリエーションの振興

担当課 教育総務課、産業振興課

- ①黄金森公園陸上競技場及び学校体育施設等を活用し、各種スポーツ大会や教室の開催など、スポーツ・レクリエーション活動の振興を図ります。また、障がいの有無や年齢に関わらずすべての町民がスポーツ・レクリエーションに親しめる環境づくりを推進します。
- ②黄金森公園陸上競技場の環境を活用し、町観光協会等と連携してプロスポーツチームのキャンプ誘致等を図るとともに、プロチームとの交流を通じたスポーツに関する技術力・意識の向上を図ります。
- ③町内の公園を活用し、子どもから大人まで健全にスポーツが楽しめるスポーツ施設の整備・充実に努めます。

重点事業

- 平和学習交流事業
- 国際交流事業
- はえばる大学事業
- 文化伝統芸能等事業
- 各種スポーツ教室、スポーツ大会の実施

5年後（令和8年度）の目標値

指 標 名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)
南風原文化センターの来館者数	3,856人	28,000人
はえばる大学受講者数	10人 (延べ39人)	20人 (延べ80人)
スポーツ施設の利用者数	91,617人	100,000人
スポーツキャンプ・合宿受入件数及び利用者数	17団体 1,695人	20団体 1,700人



まちづくり目標 2

教育・文化

きらきらと輝く人が育つまち

3 節 個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を地域と育む、学校教育



施策のめざす姿（5年後のあるべき姿）

- 幼児期からの一貫性のあるカリキュラムが確立され、子どもの発達段階に応じた確かな学力と生きる力が育まれています。
- 教育委員会や町社会福祉協議会などと連携し、福祉への理解や命の大切さ、健康づくりに向けた心身を豊かにする学習が行われています。
- 学校・家庭・関係機関等が子どもの「生きる力」、「豊かな心」、「健やかな体」について十分に理解し、子どもたちが安心して学び成長しています。
- 学校応援隊はえばるのボランティアをはじめ、学校・教育・地域の支援団体等が一体となって、全町民あがての地域に根差した特色ある学校づくりが展開されています。

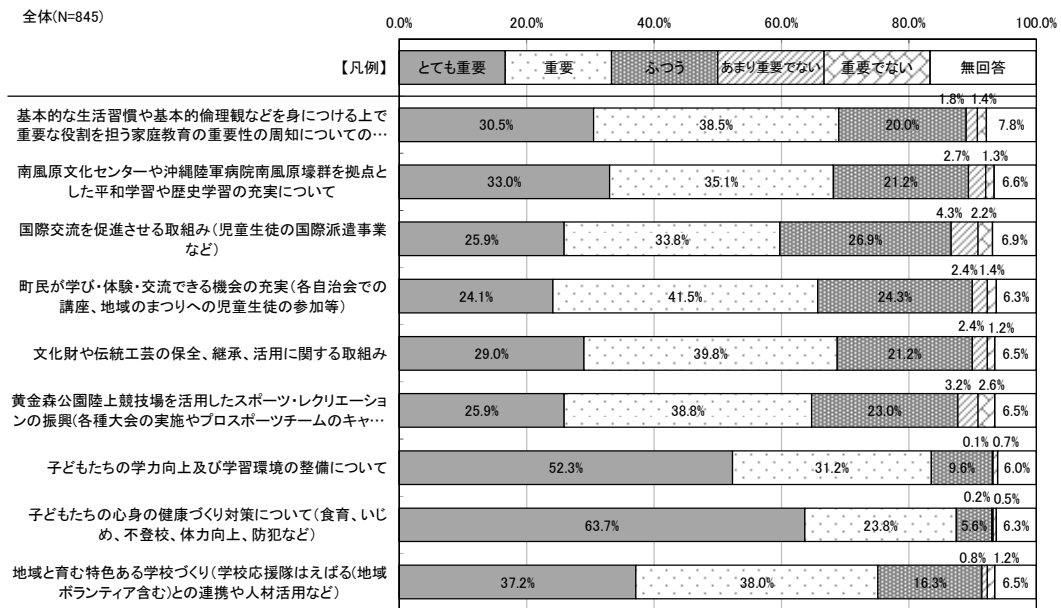
現状・課題

（1）豊かな心と健やかな体を育む学習内容の充実

- ①町民アンケート調査において、教育・文化分野の取組の重要度について質問したところ、「子どもたちの心身の健康づくり対策について」とても重要が63.7%、「子どもたちの学力向上及び学習環境の整備について」とても重要が52.3%などとなっており、非常に重要度が高い項目と言えます。

Ⅱ 基本計画編

まちづくり目標 2. きらきらと輝く人が育つまちの重要度



出典：南風原町総合計画アンケート調査

- ②子どもたちの入園・入学がスムーズにできるよう、保幼小連携※9を行い各関係機関で情報共有に努めていますが、より一層の保幼小から小学校へのスムーズな移行、かつ教育の一貫性を高めるための関係機関の連携の強化、情報の共有化の推進、カリキュラムの充実が望まれます。
- ③教育現場のICT化を通じて、わかりやすい授業を実施し、教育の質の向上と学力の向上、時代の変化に対応できる人材の育成に努めています。情報化社会の中において、電子機器（スマートフォン等）の利用については、ルールを守り正しい利用が求められています。
- ④基礎学力の向上に向け、児童生徒を支援するための学習支援員の配置を行っています。また、外国の言語や文化について興味を持たせ語学力向上や国際理解を深めるために、小中学校に日本人英語指導助手や外国人英語指導助手を配置しています。学力向上には、児童生徒の学力のきめ細かな把握と、それに応じた学習及び指導法を工夫するとともに、対応できる教育人材の育成・確保が必要です。グローバル人材の育成に向けた英語教育の充実については、小中学校における一貫性や英語に触れる機会の増加、指導体制の一層の強化などが必要です。人工知能（AI）などの最先端技術の進展により、子ども達を取り巻く環境は多様化しており、次代に必要な資質・能力の育成が求められています。
- ⑤福祉教育の推進については、教育委員会と町社会福祉協議会が連携し「南風原町福祉教育推進事業」を実施しており、子どもたちの「思いやりの心」「社会連帯の精神」を育む取組を推進しています。各学校で実施されている福祉教育プログラムは、その内容や成果に違いがあ

※9 保幼小連携：成長過程において保育園、幼稚園、こども園、小学校それぞれの教育・保育課程を関係機関が連携してなめらかに接続することで、発達や学びの連続性を確保し子どもたちの健やかな成長を支援するための取組。

ることから、更なる充実に向けて各学校と教育委員会、町社会福祉協議会が連携強化を図る必要があります。

（２）子どもたちの心身の健康づくりと安心して学ぶ環境づくり

- ①不登校または不登校傾向にある児童生徒や、子どもへの対応に悩みを持つ保護者に対する支援を充実させるため、青少年教育相談員や心の教室相談員、特別支援教育相談員を配置し、教育相談の支援を行っています。また、子どもたちの健全育成に向け、放課後子ども教室やクラブ活動を実施しています。さらに、防災マップづくりを通じた子どもたちの危機管理能力の向上、安全マップの活用により安心して学ぶ環境づくりに努めています。子どもの「生きる力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む教育を充実させるため、より良い環境づくりが求められています。

（３）地域と育む特色ある学校づくりと開かれた学校づくり

- ①「生きる力」を育むためには、学校と家庭・地域との協力関係を深めることが重要です。そのため、学校と地域コーディネーター、地域の学習支援ボランティア（学校応援隊はえばる）が連携し、教育内容の充実を図り、「地域に開かれた学校教育」を行っています。学校応援隊はえばるボランティア数の状況を見ると、令和元年度（2019）まではおおむね目標に近い人数で推移しています。今後も更なる学習領域拡大やボランティア人材を増やし、地域教育力の向上を図る必要があります。

学校応援隊はえばるボランティア数の状況

項目	基準 (H27)	目標 (R3)	実績			
			H29	H30	R1	R2
学校応援隊はえばる ボランティア数（人）	1,583 人 (延べ人数)	2,000 人 (延べ人数)	1,747 人 (延べ人数)	1,929 人 (延べ人数)	1,719 人 (延べ人数)	779 人 (延べ人数)

出典：生涯学習文化課調べ

- ②学校と家庭、地域が一体となって学力向上に取り組んでいけるよう、「学校公開日（5月第4日曜日）」、「教育の日（12月第2日曜日）」に、学校公開、講演会、教育長表彰を実施しています。小学校、中学校では、キャリア教育として地域の事業所等との連携による様々な職業体験ができる環境が整っています。共働き世帯の増加、経済的格差の拡大、学校教育に対する保護者の意識の違いなど、子どもを取り巻く環境は変化してきており、子どもの居場所を含め、地域との連携による教育の充実が求められています。

施策の展開

（１）豊かな心と健やかな体を育む学習内容の充実

担当課 学校教育課、教育総務課

- ① 幼児・児童・生徒の発達段階を踏まえた総合的な教育の充実を図るとともに、幼小中連携により「南風原町学力向上推進要綱」に基づいた学力向上に取り組みます。
- ② 基礎学力の定着・向上を図るため、学力調査の実施や学習支援員、外国語指導助手等を配置し「確かな学力」の向上に取り組みます。また、すべての学習の基盤となる「読解力」の育成とキャリア教育の視点を踏まえた取組を推進します。
- ③ 「わかる授業」構築のため、「町そろえる実践^{※10}」を実施し、学力向上に取り組み、児童生徒同士の自治活動や人間関係づくりを重視した学級・学校づくりを推進します。また、各種研修会を通じて、教職員の資質向上を図ります。
- ④ ICT 機器を活用し学習指導の工夫改善を図ります。
- ⑤ 各学校と教育委員会、町社会福祉協議会との連絡会等を通して、福祉教育推進に関する情報共有を図るとともに、研修体制の構築による学校等への支援の充実強化に努めます。

（２）子どもたちの心身の健康づくりと安心して学ぶ環境づくり

担当課 教育総務課、学校教育課、こども課

- ① 幼児期から地域の特徴を生かした食育を推進します。
- ② 遊びや運動、スポーツ等を通じて心身の健康づくりや運動の習慣化を図ります。
- ③ 学校における相談機能を充実させるとともに、いじめや問題行動への対応、登校支援など、地域及び関係機関等と連携し解決に向けて取り組みます。
- ④ 子どもたちが学校で安心して学ぶことができるよう、地域と連携し学校の防犯・防災体制の充実を図ります。
- ⑤ 学校周辺の安全マップの活用とともに、子どもたちが様々な危険や問題について、自ら考え対処できる危機管理能力の向上を図ります。
- ⑥ 児童生徒及び保護者を対象にした、インターネット環境における情報モラル教育等を実施します。

（３）地域と育む特色ある学校づくりと開かれた学校づくり

担当課 生涯学習文化課、学校教育課、教育総務課、こども課

- ① 学校応援隊はえばる（地域ボランティア、地域コーディネーター含む）を通じて、地域と連携し、地域に開かれた環境づくりを推進します。
- ② 教育の日に学校公開・講演会・教育長表彰等を実施し、教育に対する町民の関心と理解を

※10 町そろえる実践：学校規律の確立を目的として町内各幼稚園、小・中学校で実施している「2分前着席」、「1分前黙想」などの取組のことをいいます。

一層深めるとともに、学校・家庭・地域が連携し、町民全体で教育に関する取組を推進します。

重点事業

- 小中学校、幼稚園における教育環境の充実事業
- 南風原町学校支援地域本部事業（学校応援隊はえばる）

5年後（令和8年度）の目標値

指 標 名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)
学校生活が楽しいと感じている児童生徒の割合	小学校：88.6% 中学校：82.2%	小学校：99% 中学校：93%
学校応援隊はえばるボランティアを活用した授業数	延べ628回	延べ650回

